

現 役 大 学 生

Be Positive

インターンの つながる通信

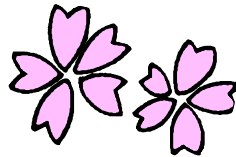
～神原議員のもとでたくさんのお会いがありました～



神原インターン 12期生

興味のあることについて調べました

地域子ども教室



関西学院大学 法学部
森下 真衣

私は、地域との連携によってより充実した教育ができるのではと考え、地域子ども教室について調べました。豊中では全41小学校区で、それぞれ多種多様な教室が開かれています。しかし、中学生や親世代の参加率の低さといった課題が挙げられます。こうした課題を踏まえ、私が提案したいのは「中学校部活体験」です。これは、小学生が中学校で部活動を体験するというもので、小学生と中学生、教師、地域の大人など異年齢の交流を図ることができ、さらに部活をするという体験だけでなく、人とのふれあいという子どもたちにとって貴重な経験もできるのではないかと思います。“地域の子どもは地域で育てる”ことを忘れず、今後も地域と学校が連携していくことがより充実した教育につながると思います。

外国人児童に対する日本語教育

立命館大学 産業社会学部
中塚 春菜

日本語を全くしゃべれない子、会話はできても学習言語は分からない子など、抱える問題は様々です。豊中市は、そのような生徒に対する通訳の配置・プレクラス（学校の擬似クラス）の設置・日本語を学ぶ教室の設置に取り組んでいます。しかし、通訳には時間的、人数的な上限があり、全ての外国人児童に手が行きとどいていないのが現状です。制度の充実を図ると同時に、就学前からの日本語教育、さらに私たち日本人の理解も必要になってきています。豊中市には、国際交流協会を始め、様々なボランティアが存在し、日本人と外国人の交流の場が設けられています。相互理解をすすめ、外国人にとって住みやすい豊中市をつくることが大切です。



少人数学級

立命館大学 産業社会学部
小谷 聡史

僕自身が小中学校時代に「クラスの人数が多い」と感じ、その影響で先生に質問したくても、なかなかできなかったことや現役の小・中学生からもクラスの人数が多いという意見を聞いたこともあり調査を行いました。少人数学級は教員が一人一人の生徒を見る機会が増え、きめ細やかな指導が可能になり、子どもたちの授業参加が積極的になるというメリットがあります。一方で、教員や教室の確保が必要になり多大なコストがかかるため、豊中市では小1・2の35人学級導入と一部の学校のみでの課題別学級編製の導入にとどまっています。少人数学級は生徒や保護者からも絶大な支持があり、子どもたちへのサポートや学習環境の改善のために多少お金がかかっても35人学級を導入してもらいたいと思います。

小学校見学



消防署見学

災害時の外国人支援

大阪大学 文学部
渡川 和子

私は災害時の外国人支援について調べました。現在豊中市には約4600人の外国人が住み、その半数が日本語をあまり話せないと言われていています。国際交流協会や市民団体が外国人の生活支援を行っていますが、防災に関しては十分ではありません。そこで、地震などの災害が起こった際、日本語がわからず、地域とのつながりが薄い外国人に対して豊中市は対策をしていく必要があると考えました。解決策として、市民団体との連携を強化し防災意識を高めるため防災訓練や講習の実施、災害時の通訳ボランティア派遣の仕組みの構築が必要と思います。また、行政だけが対応していくのではなく、地域が日本語のできない外国人を見守っていく仕組みを作っていく必要があると思います。

あっという間の2か月間でした。
ここで学んだもの・経験は
私たちの宝物です！

